

Ⅲ ヒアリング調査からみた経営概況（企業の声）

【現在の景況感】

- 「景気は横ばいで普通である」（食料品製造）
- 「地域的に不況とを感じる。良くなっていない」（印刷業）
- 「インフラ関係の大きいものではないが需要はある」（プラスチック製品）
- 「建機関係の仕事をしている企業は好調」（鋳鉄鋳物）
- 「引き合いが増えており、受注が増えている」（金属製品）
- 「景気が上向き掛声は挙がってきているものの、実感はまだない」（電気機械器具）
- 「景気は決して悪くはないが、良いという感じもしない」（輸送用機械器具）
- 「現状では、良くなっていると思う」（一般機械器具）
- 「世間を見ていると、大手は良くなっているという印象」（建設業）
- 「景況感は変わらず厳しい」（百貨店）
- 「正月が明けてから、以前よりも良くなってきている」（スーパー）
- 「100ではないというところ」（商店街）
- 「仕事の相談をもらうことが多いので、まあまあ良い」（情報サービス業）

【売上・採算】

- 「数量が減少している分品種が増えれば良いが、数量の落ちをカバーするまでには至っていない」（印刷業）
- 「利益率の良い仕事を選んで受注している」（金属製品）
- 「メーカーが決算の時期に入り生産調整が行われるので、売上げが落ちる時期である」（電気機械器具）
- 「売上げは全体的にみれば横ばいだが、建設機械部品の取引数量が良い時の約3割減と低調なまま」（輸送用機械器具）
- 「100%稼働のフル生産の状態」（一般機械器具）
- 「民間建築案件を中心に、昨年並みの受注高を維持している」（建設業）
- 「12月が、一年の中で売上げがピークとなる時期であった」（スーパー）
- 「単価の高いものが売れていない。中間層の“普通の買い物”が弱い」（百貨店）
- 「年度末は仕事が増え、売上げが増加する時期である」（情報サービス業）

【今後の見通し】

- 「景気は現在の横ばいの状況が続き、大きな変化はない」（食料品製造）
- 「輸出企業が為替の影響を懸念し、動きが慎重になってしまっている」（印刷業）
- 「オリンピック関係の仕事があるので、良い方向に向かう」（鋳鉄鋳物）
- 「当面の方向性は悪くないと思うが、どこまで続くか懸念している」（金属製品）
- 「業界の通年サイクルにより、良い方向に向かうだろう」（電気機械器具）
- 「米国のNAFTA（北米自由貿易協定）再交渉など通商政策の動きがどう影響してくるのか、先が見えない状態」（輸送用機械器具）
- 「TPPの発効が見込まれなくなった影響も特に感じられず、方向性は良いと思う」（一般機械器具）
- 「2020年までは受注が順調に見込めるという取引先がいくつかある」（プラスチック製品）
- 「下の方まで良い流れが来ている。悪くはない」（建設業）
- 「明るい色が流行すると予想されており、良い方向に向かうことを期待」（百貨店）
- 「米国大統領の刺激が一時的ブームで終わってしまうと、景気が良い方向に向かう材料がない」（スーパー）
- 「駅前開発など来街者が増えるプラスの材料がない限りは、どちらともいえない」（商店街）
- 「米国の通商施策が日本の大手企業や顧客にどのような影響を与えるのか、まだ不透明」（情報サービス業）